

京都グレインシステム株式会社

2020 年度 環境経営レポート

(対象期間： 2019 年11月1日～ 2020 年10月31日)



作成日： 2021年8月7日



— 目 次 —

項 目	ページ
ご挨拶・環境経営方針	1
組織の概要	2
環境経営組織図	3
責任及び権限一覧	4
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価・環境活動	6
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無	7
代表者による全体の評価と見直し・指示	8

ご挨拶

京都グレインシステム株式会社は創業以来、経営理念「健康と感動を食生活へ」のもと、事業活動に取り組んできました。飲料事業から食品事業へ拡大し、“市場にないものが欲しい”というお客様の難しいニーズにも応えてきました。

□環境経営方針

環境経営方針

当社は、環境にやさしい食品製造業を目指し、行動指針のひとつである「もったいない」の精神を育てよう（歩留まり・不良加工・工程のムダ・省力化の改善）を基に、SDGsの推進・環境保全の推進・維持に取り組めます。また、法令を守り環境の事を考えた商品の購入（グリーン購入）に努めます。

<必ず取り組む行動>

- 省エネルギー化
- エネルギー使用量管理、見える化
- 井水・排水量及び水質管理、再利用化
- 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善
- 廃棄物の削減、リサイクル化
- 法令遵守とグリーン購入の推進

2018年11月1日制定

2021年 8月7日改定

京都グレインシステム株式会社
代表取締役 田宮 尚一

□組織の概要

会社概要

当社の概要は次の通りである。

社 名 京都グレインシステム株式会社

資本金 2,000万円

従業員数 80名(2020年11月現在)

所在地

本 社 〒600-8233

京都市下京区油小路通木津屋橋下ル北不動堂町480番地

資生堂京都ビル

TEL : 075-353-8833 FAX : 075-353-8837

奈良工場 〒632-0111

奈良県奈良市小倉町1224

TEL : 0743-84-0396 FAX : 0743-84-0397

石川工場 〒920-0020

石川県河北郡津幡町字湖東311-2

TEL : 076-289-7794 FAX : 076-289-7796

事業内容

農産物の製造加工及び受託加工

- ・飲料原料事業(玄米茶、麦茶、穀物茶 他)
- ・食品原料事業(発芽玄米、きな粉、雑穀パフ 他)
- ・健康食品原料及び生薬原料の刻み加工事業(原料加工)
- ・海外輸出入事業(中国茶 他)

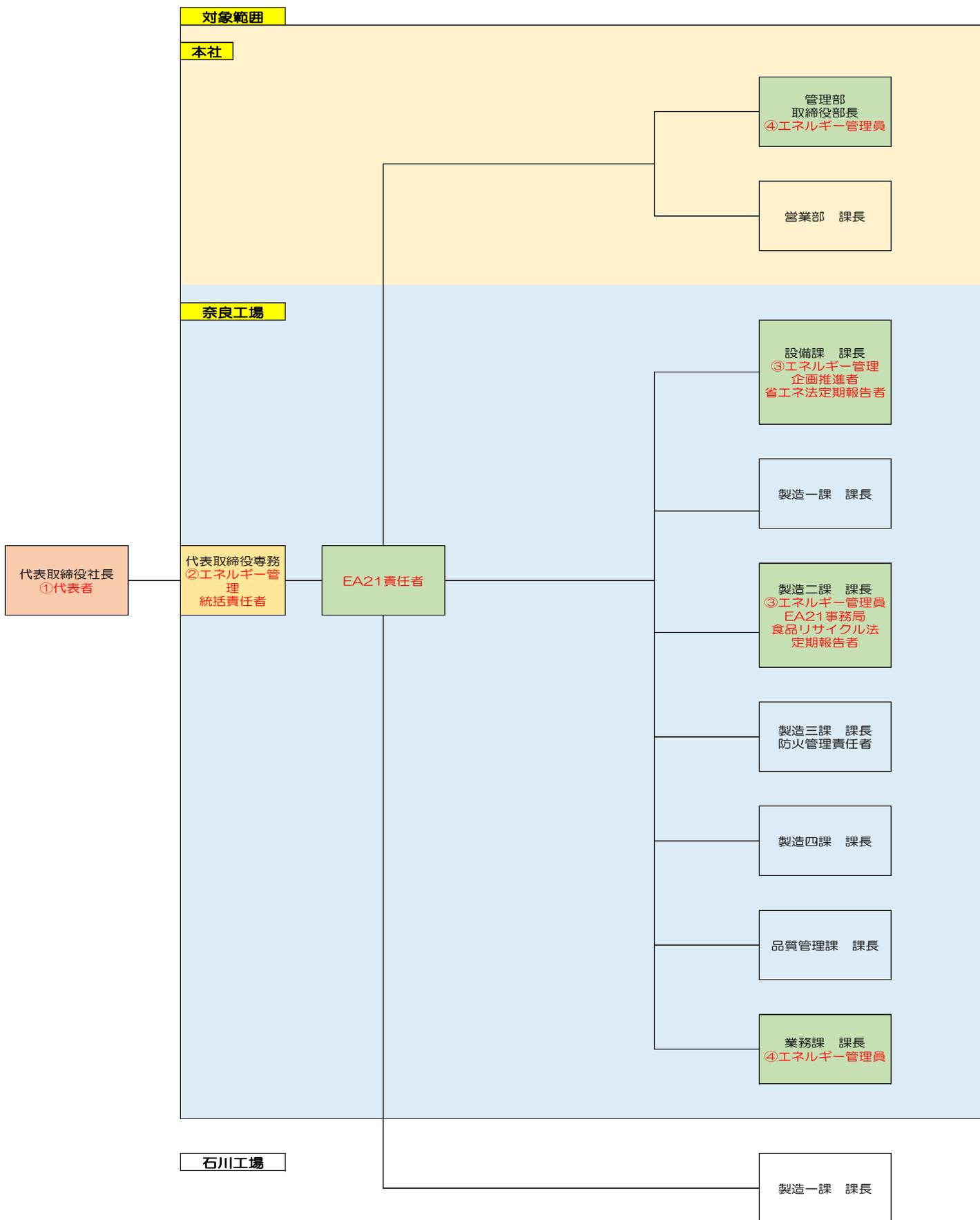
対象範囲 本社・奈良工場(石川工場は4年以内に対象範囲に加える。)

対象活動 全活動



	本社	奈良工場	石川工場
従業員	12人	64人	4人
面積 敷地 床	71㎡ (床)	73,000㎡ (敷地)	600㎡ (敷地)
売上 比率	—	90%	10%
対象範囲			

□環境経営組織図



責任及び権限一覧表

様式番号	文書	①代表者 (EA21・省エネ法)	②エネルギー管理統括責任者 (省エネ法)	③EA21責任者 /エネルギー管理企画推進者 (省エネ法)	④EA21事務局 /エネルギー管理員 (省エネ法)	⑤部門長
(1-1)	認証・登録の適用範囲					
(2-1)	課題とチャンス整理書	実施	—	作成・報告	作成・報告	周知・実施
3-1	環境経営方針	実施	承認・報告	作成・報告	周知	周知・実施
(4-1)	環境負荷アセスメント集計表	—	—	作成	作成・報告	作成補助
(4-2)	環境への負荷の自己チェック表	—	—	作成	作成・報告	—
(4-3)	環境への取組の自己チェック表	—	—	作成	作成・報告	—
5-1	環境関連法規等一覧表兼遵守評価表	(13-2)	—	承認・作成・報告	作成・報告	—
6-1	環境経営目標一覧表	承認	承認	承認・作成・報告	作成・報告	周知・実施
6-2	環境経営計画/実績評価表	承認 (13-1)	承認	承認・作成・報告	作成・報告	周知・実施
7-1	実施体制図 役割・権限・責任表	承認・実施	作成・承認・報告	承認・作成・報告	作成・報告	周知・実施
(8-1)	教育訓練計画と記録	承認	承認	承認・確認	—	作成
(9-1)	環境コミュニケーション記録	(13-1)	—	承認・確認	作成・報告	作成
10-1	運用手順書	—	—	承認・確認	作成・報告	作成補助
(11-1)	緊急事態準備対応手順	—	—	作成・確認	作成・報告	作成補助
(11-2)	緊急事態訓練記録	承認	—	確認・報告	作成・報告	周知
(12-1)	環境関連文書・記録一覧表	承認	—	承認・作成・確認・報告	作成・報告	作成 (防火管理責任者)
(13-1)	問題の是正・予防処置報告書	承認	—	承認・作成・確認・報告	作成・報告	周知
(13-2)	環境関連法規等一覧表兼遵守評価表	承認	—	承認・作成・確認・報告	作成・報告	周知
14-1	代表者による全体評価と見直し記録	実施	—	承認・作成・確認・報告	作成・報告	周知
—	環境活動レポート	承認	—	作成・確認・報告	作成・報告	周知
省エネ法	定期報告書	承認	作成・確認・報告	作成・報告	作成補助	周知
省エネ法	エネルギーを消費する設備の新設・改造又は撤去に関する事	承認	確認・報告	確認・報告	確認・報告	確認・報告
省エネ法	エネルギーの使用の合理化に関する設備の維持及び新設・改造又は撤去に関する事	承認	確認・報告	確認・報告	確認・報告	確認・報告
省エネ法	中長期計画	承認	作成・確認・報告	作成・報告	作成・報告	周知・実施

□環境経営目標及びその実績

環境経営目標一覧表

策定日：2019年11月1日

環境目標		基準年度(2018年度)		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		実績売上高千円(税込)	2,956,507	3,218,389	3,213,948			
		取組サイト	実績値	目標値	目標値	目標値	目標値	目標値
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減 (kWh/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		奈良工場	541	535	530	525	519	514
	電気二酸化炭素合計 (kg-CO2/売上百万円)		0	0	0	0	0	0
	燃料(LPG)使用量の削減 (kg/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		奈良工場	291	289	286	283	280	277
	燃料(LPG)二酸化炭素合計 (kg-CO2/売上百万円)		874	866	857	848	839	831
	奈良工場二酸化炭素排出量合計 kg-CO2/売上百万円		874	866	857	848	839	831
	奈良工場二酸化炭素排出量合計 kg-CO2		2,584,778	2,558,930	2,533,082	2,507,234	2,481,387	2,455,539
	京都本社 ガソリン使用量 (L)		対基準年度削減% (2018年11月～2019年10月)	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		ガソリン (2.32kg-CO2/L)	9,851	実使用量調査中	2019年度使用量 ×0.99	2019年度使用量 ×0.98	2019年度使用量 ×0.97	2019年度使用量 ×0.96
軽油 (2.58kg-CO2/L)		1,055	実使用量調査中	2019年度使用量 ×0.99	2019年度使用量 ×0.98	2019年度使用量 ×0.97	2019年度使用量 ×0.96	
京都本社二酸化炭素排出量合計 kg-CO2/売上百万円		8.65	実使用量調査中	2019年度使用量 ×0.99	2019年度使用量 ×0.98	2019年度使用量 ×0.97	2019年度使用量 ×0.96	
京都本社二酸化炭素排出量合計 kg-CO2		22,877	22,648	22,420	22,191	21,962	21,733	
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物の削減 (kg/売上百万円)		対基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		奈良工場	30.2	29.9	29.6	29.3	29.0	28.7
食品廃棄物再生利用実施率の 向上維持			基準年度(2018年度)%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%	95.3%
		奈良工場	95.3%	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持	基準以上維持
水使用量の削減	地下水使用量の削減 (m ³ /売上百万円)	奈良工場	基準年度削減%	1.0	2.0	3.0	4.0	5.0
		使用量	6.4	6.4	6.2	6.1	5.8	5.5
グリーン購入の推進	環境負荷低減商品の使用	全社	使用商品のG商品使用率	基準年度値維持			基準年度+5%	
	事務用品・車両・照明器具		70%	70%以上	70%以上	70%以上	75%以上	75%以上
製品及びサービスに係る環境 配慮	容器包装の適正化		過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止	過剰使用禁止

※電力のCO2排出係数は株式会社エネットのメニューAの為、「0」となる。

※本社は4事業者と共用のため、電気、水、廃棄物量は目標設定しない。

※奈良工場の車両燃料、事業系一般廃棄物は僅少のため、目標設定はしない。

※化学物質を使用していない。

□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画
□環境活動

環境活動 担当者		月別の計画/実績		5: ほぼ 100% 取組みができた 4: 75% 程度の取組みができた 3: 50% 程度の取組みができた 2: ほとんど取組みなかった 1: 全く取組みなかった
		評価基準/集計	数値評価	
高瀬	不要照明の消灯の継続	3		<p>本年度はコロナの影響に伴い前年度比で生産量及び売上げが下がったものの基準年度比較としては増加し、原単位では、1%削減となった。 今後も引き続き節電への意識を高め、高効率な製造ライン化を推進する。 尚、空調の温度管理に関しては作業に支障をきたす恐れがあった為、設定温度を変更し対応した。</p>
今西	空調の温度管理の継続 暖房時: 22℃ 冷房時: 26℃	3		
今西	OA機器等の省エネ設定および 不使用時の電源オフ	4		
小川	電気使用機器の省エネの検討	4		
計画		530		
実績		526	○ 99%	
海東	燃焼設備 空気比の調査と適正化	3		<p>原単位では8%超過となった。是正対象とはならないが、コロナの影響により客先での在庫調整に伴い生産対応も小ロットが多かったため、効率が落ちたように思う。 稼働状況としては余分な暖気や不必要な運転は見受けられなかった。</p>
海東	機器の暖機及び運転時間の短縮	3		
—	—			
—	—			
計画		286		
実績		285	○ 100%	
計画		857		<p>コロナの影響に伴い公共の交通機関を控えたため必然的に社用車の使用が高まった。</p>
実績		854	○ 100%	
計画(参考値)		2,533,082		
実績		2,745,934	× 108%	
平山	公共交通機関の利用	3		
ガソリン	計画	9,753		
	実績	11,391	× 117%	
軽油	計画	1,045		
	実績	1,276	× 122%	
計画		8		
実績		9	× 109%	
計画(参考値)		25,069		
実績		29,718	× 119%	
小川	再利用化の推進	4		<p>以前からの取組の為、継続的に活動を推進する。 原単位では125%超過となり、是正対象となった。 設備関係として更新時に旧機器でも効率が悪くならないのであればリユース化をはかる。</p>
—	—			
—	—			
計画		30		
実績		37	× 125%	
前川	食品廃棄物再生利用実施率向上	3		<p>以前からの取組の為、継続的に活動を推進する。 今後も、ロス量軽減に努めると共に有価物の新たな再利用化を模索していく。</p>
—	—			
計画		95%		
実績		99%	○ 96%	
楠田	節水	4		<p>以前からの取組の為、継続的に活動を推進する。 給排水を管理を徹底すると共に製造ラインで使用している水の節水を実施している。</p>
計画		6.3		
実績		5.6	○ 88%	
高瀬	グリーン購入の推進	継続中	-	<p>事務用品は、概ね実施は出来ている。機械関係に関しては、省エネ対応が増えてきている為、グリーン購入を推進しやすい。</p>
中谷	容器包装の適正化	過剰使用禁止	-	
備考		<p>・食品廃棄物の発生量: 516.06トン ・再生利用の実施量: 510.13トン ・処分の実施量: 5.93トン</p>		

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法令についての違反、訴訟等はありません。また、関係当局からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

法律名	適用設備及び活動	記録その他	評価
大気汚染防止法	乾燥機	ばい煙発生施設設置届出書	○
		ばい煙測定報告書	○
水質汚濁防止法	公共用水域への排水口	特定施設設置届出書	○
		水質分析 50m ³ 以下/日	
騒音規制法	コンプレッサー・送風機・穀物用製粉機	騒音規制法特定施設届出届	○
	敷地境界騒音レベル	騒音測定 記録	○
振動規制法	コンプレッサ	コンプレッサ仕様一覧表	○
	敷地境界線上 振動レベル	振動測定 記録	○
自動車No x ・PM法	ダンプ（普通）	自動車検査証	○
浄化槽法	合併浄化槽	届出書	○
		浄化槽保守点検記録表	
廃棄物処理法	産業廃棄物	委託契約書	○
		許可証	
		マニフェスト	
		報告書	
食品リサイクル法	奈良工場	定期報告書の提出	○
容器包装リサイクル法	特定容器利用事業者	指定法人引き渡し	○
省エネ法	灯油、ガソリン、軽油	—	○
	その他エネルギー	—	
	使用設備		
	全社	定期報告書の提出	
フロン排出抑制法	7.5kW以上50kW未満のエアコン	定期点検表	○
消防法（危険物）	少量危険物貯蔵設備 980ℓ屋外タンク	少量危険物貯蔵取扱届出書	○
		甲種防火管理講習修了証	
水銀汚染防止法	蛍光灯・水銀灯の廃棄時	マニフェスト	○
悪臭防止法	焙煎設備	臭気強度	○
	敷地境界線レベル		
	工場・機械排出口		

廃パレットの有効活用を目的として三重県伊賀市にある三重中央開発（廃棄物処理場）へRPF化処理について現場見学を実施した。使用目的としては固形燃料となるが廃棄物量としては多いものの有効活用できる先はまだ少ないとのこと。今回見学に訪れたのは、三重中央開発は三重リサイクルセンター1カ所となる。

廃プラスチック全般を粗砕きし磁力選別にて金属物を取り除く。更に細かく砕き再度磁力選別した後、160～170℃の熱で熱した状態でプレス機にて圧縮。プレス機出口のパンチングより出てきた処理物を裁断機でペレット状にする。



□代表者による全体の評価と見直し・指示

製造現場が日々、環境に対して取り組んでいるのは良くわかる。特に大口ロットの生産は効率が良く原単位の数値にも表れているが半面、小ロット生産は効率が良いとは思えない。今後は小ロットの商材を減らしていく方向で考えているがお客様のニーズとしては致し方ない部分もある。エコの取り組みは結果的に効率の向上につながる。即ち会社に対して利益を生むことになる。これを実現させるためには、製造現場のみならず間接部門も今まで以上にエコに対する意識を持ち取り組む必要がある。尚、環境経営目標及び経営計画は従来通り実施する。京都グレインシステムとしてはお客様にて生じた廃棄されるような物を加工し商品化している部分もあり、再利用化としてエネルギーを使いつつも環境保全に寄与している一面もある。旭川工場並びに長浜工場と拡張していく中で将来的には京都グレインシステムとして各地域への貢献・協力及び活性化も含めた食品リサイクルループを実現していきたい。